

# 今一度の チャレンジ

愛知教育大学

学 長 田原 賢一 氏



教育随想

今年度から完全学校週五日制、新学習指導要領の実施あるいは少人数教育など教育に関する事柄が大きく変更されようとしています。先生方の万全な備え等とともに、たゆまぬ努力のお陰を持ちまして順調に進行していることと思います。

さて、近年世の中全体がイージーな方向に流れる傾向にあり、少し我慢する、努力をする、ということを選べる傾向にあるように思えてなりません。

何かを努力・試行してみる。しかしうまくいかないとすぐあきらめてしまう。こんなとき、もう一度さらにチャレンジを試みる。もう一度チャレンジをするか、しないかで、物事の進展は大きく変わることがあるものであります。たとえば、数学の

研究において、行と行の間、行間を読むのに二時間、三時間を要するとは度々あるものです。とくにゼミのときなどはそうであります。そして、二・三時間かけても行間を読む・埋めることのできた喜びはまた格別なものがあります。また、私自身でも高等学校から大学への進学について、両親に相談したら進学は認められない、と言われました。しかし担任の数学の先生に頼んで両親を説得していただいたお陰で、今日の私があるのです。これも、今一度の

チャレンジの賜物ではないでしょうか。永い人生には、その人の生涯を左右する岐路があるものであります。その分岐点で今一度の努力してみるこの大切さを感じ入っている昨今であります。

岡崎の教育に携わっておられます先生方のご苦勞を労うとともに、今後のますますのご発展を祈る次第であります。

(たはら けんいち)



平成14年7月1日

## 7月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	1
愛知教育大学 学長 田原 賢一氏	
この人に聞く	2
シンガーソングライター 弓立 まり氏	
羅 針 盤	2
英語科指導員 本多みどり	
ふれあい	3
矢 作 幼 安藤ひとみ 常磐南小 山本 誠	
特 集	4
今度のお休み何をしよう 土・日の子供たちの 受け皿あれこれ	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
健康優良児童審査会(昭和6年)	
この本を	8



## 命の尊さを伝えたい

シンガーソングライター

弓立 まり 氏

現在、ボランティアで活発に音楽活動をされている弓立さん。お二人の男の子のお母さんである。

中学生のときに独学で始めたギター。高校時代は、サークルでオリジナルの歌作り。社会人となって商店街やライブハウスでの活動。しかし、結婚後は音楽活動から遠ざかっていった。

次男の真也君の知的・聴覚障害がわかったのが、生後十一か月のとき。このときの気持ちをこう話された。「頭をガンとハンマーで殴られ

たような気がしました。わたしの耳をあげられるものならあげたいと思いました。今までわたしが話しかけていた言葉も子守歌も届いていなかった。わたしは歌が好きなのにこの子は一生歌の楽しさを味わえない。もう悪いことしか考えられませんでした。毎日泣いていました。」

そんな弓立さんが変わったのは、福祉の村にある「めばえの家」に真也君と通い始めてからである。

「ほかのお母さん方と話し合っているうちに、わたしだけじゃないと思うようになりました。そして、互いに子供の小さな成長を喜び合えるようになったんです。」

さらに、平成十年に音楽活動を再開されたきっかけについて、このように話された。

「命はこんなにもいとおいと思えました。障害のある子がたくさんいることも知ったし、今まで知ること



となかった世界を知ることでもできました。いろんな意味でよかったです。思ったんです。めばえの家にいてお母さんたちと話し合ったこと、子供たちの笑顔に支えられたことを歌にしたくなったんです。」

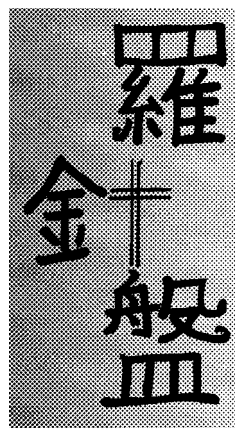
このとき『明日は晴れる』という歌を作詞・作曲し、めばえの家で歌った。反響は大きく、口コミでどんどん広まっていった。

昨年夏に出した二枚目のCD『メッセージ』のジャケットに、こんな言葉がある。

「障害児の母になって、私は大切なことに気づきました。命の大切さ、感謝する心、相手の身になって考えてみること……私が感じたままを歌にして……一人でも多くの人にメッセージを伝えたい。」

幼稚園、小・中学校、施設等での音楽活動は、今年で一六〇回を超えた。「コンサートの依頼があれば、どこへでも行きます」とおっしゃる弓立さん。弓立さんのメッセージを受け取る人の輪は、これからますます広がっていくことであろう。

氏名 ゆだて まり  
生年月日 昭和三十八年七月十四日  
住所 赤浜町西河原四二一



Talk more, talk better

英語科指導員

本多 みどり

ALTとのすばらしいティームテイミングの授業を見ることができた。

教科書の音読後、「道案内の名人になろう」という教師の言葉に呼応して自作のビデオがかかる。「Hi! Let's watch the wonderful video!」

道に迷ったビデオの中のALTが目的地への道順を尋ねる。その中で「Oh, sure.」の言葉に続き、道案内図を示しながら説明し、最後は「You are welcome.」まで自然にこなす人物が登場する。思わず、生徒から歓声があきおこる。おまけに「This is your turn. Now, let's try!」とテレビから生徒にバトンが渡される。絶妙な間合いである。

内容の確認・単語の発音練習に続き、クイズ①が始まる。絵を見てALTの話聞き、質問に答える。ド

## ドンングリの苗木

矢作幼 安藤ひとみ

園内のウサギ小屋の前には、二十センチメートルほどの小さなドンングリの木が植えてある。今年春に卒業したA男が、三歳児のときに家から持ってきたドンングリの実を鉢に植え、大切に育ててきた。卒園を間近に控えた三月、もっと大きくなるように地面に植えたいというA男の思いを受け止め、一緒に場所選びをしたのである。

「ここは、三輪車が通って踏まれちゃうからだめ。」

と、なかなかA男の気に入る場所は見つからなかったが、ウサギ小屋の前ならと納得し、真剣な表情で植え替えた。植え終わると、看板があることに気付き、自らくぎを打ち、看板作りをした。



久しぶりに園を訪ねたA男が、前担任だったわたしと一緒に、園庭の隅のウサギ小屋の方へ行く。じょうろで一緒に水をかけながらA男が言った。

「この木が大きくなったら、みんなでドンングリ拾いができるよ。」

「そうね。A男君も拾いに来てね。」  
 につこり笑ってうなづく表情から、ウサギ小屋の前のドンングリを思いやるA男の温かい気持ち伝わってきた。



「がんばるよ」

常磐南小 山本 誠

A子は、三年生の五人の学級の中でただ一人の女の子で、時に遠慮がちな様子が見られる。

総合的な学習の「未来の町づくり」で、パソコンソフトを使用して絵地図を描かせたところ、A子は他の子よりも操作が速く、丁寧に描いていく。「Aちゃん、道の幅を狭くするにどうしたらいいの。色を変えるにはどうしたらいいの。」

と、A子に男子四人が次から次へと



質問していく。

わたしは、このごろA子の祖母が病院に行っていることを聞いていたので、「なぜ、家の近くに病院や花屋さんがあるの」と質問した。

「うちのおじいさん、おばあさんが通いやすいし、病院の近くに花屋さんがあれば、お見舞に行くときにいいから。」

「そうか、いいことに気がついたね。」  
 この発言が、男の子たちに暮らしやすい町作りを考えるきっかけとなっていた。

廊下を歩いていたらわたしに、A子が笑顔で声をかけてきた。

「先生、わたし、跳び箱頑張るよ。」  
 この学習を契機に、A子は苦手なことにも進んで挑戦しようとしている。

の生徒も反応がすばらしく速い。それも一度聴いただけである。

クイズ②は、四つの場所についてさらに複雑になった文を聴く。同じ意味でも表現を変え、その都度、生徒の意欲をそそる。

クイズ③は、場所を尋ねるプリントをもとに、その場所を英語で説明する。拡大地図が教室の四か所に掲げている。

「先生、凝っているね」とA子。知的好奇心を相当くすぐったようだ。どの生徒もわくわくしている。その後、生徒同士の発表となった。

"Excuse me. Could you tell me the way to the flower shop? Sure. It's in Jusco." さらに、花を買う理由を尋ねて誕生日と聴けば、"Say 'Happy birthday' to your mother."と続ける。

「生徒が話す自分の英語」を進歩させるためには、子供たちの生活に沿った場面設定をして、コミュニケーション意欲を高めることが大切である。本授業は、その上に「ことば」の創造性・発展性を大切にして、現実感ある本物のコミュニケーションを目指していた。

これからの英語教師に求められるものがここにある授業であった。

# 今度のお休み 何をしよう



▲昔の遊びの体験 (藤川小学区体育指導委員)

## 土・日の子供たちの

## 受け皿あれこれ

今年度、いよいよ完全学校週五日制が実施された。それに伴って、子供たちの土・日曜日の活動の機会を広げようと、各地域で、様々な取組が行われている。

岡崎市は今年度、市内の五施設が無料になる制度を全小中学生対象に実施した。四、五月で、約八〇〇名がこの制度を利用して各施設を訪れ、どの施設でも、昨年度に比べると利用者がぐんと増えている。少年自然の家でも、参加者を募って月一回の親子を対象にした行事を開いている。

各地域では、左表のように様々な子供たちの活動の場が設定されており、これらの活動は、子供会、PTA、社会教育委員会といった地域のボランティアの力に支えられている。中には、自宅に私設図書館を設け、子供たちに開放している例も見られる。こうした場を通して、子供たちが地域の人と触れ合うよい機会となり、子供同士でも新しいつながりができるといった成果を上げている。

完全週五日制のスタート。学校だけでなく地域全体での子育てが、今、注目されている。

### ●市の施設を利用して●



▲利用者が増えた子どもの家 (六ツ美中部学区子どもの家)



▲親子で参加オリエンテーリング (少年自然の家)



▲わくわくカードで岡崎城見学

● 各地域・学校の場で ●



▲私設図書館「めだか文庫」でコンサート  
(広幡小学区 小林さん宅)



▲父親部会のおじさんと紙飛行機作り  
(六ッ美南部小PTA)



▲図工室を開放して木工工作 (岩津小PTA)



▲親と一緒に資源回収 (城南小子供会)

各地域で実施されている活動

体育的活動

- ・バレーボール・ゲートボール・ドッジビー
- ・グランドゴルフ・フットベースボール
- ・ミニテニス・サッカー・バスケットボール
- ・野球・バドミントン・ソフトボール など

文化的活動

- ・親子工作・ファミリーコンサート・化石掘り
- ・昔遊び・囲碁教室・もちつき・国際理解教室
- ・私設図書館開放・パソコン教室 など

ボランティア的活動

- ・市民ホーム清掃・資源回収
- ・学区の花壇の世話 など



▲地域の人と瑞浪市へ化石掘り体験ツアー (常磐小PTA)



▲お年寄りと一緒にグランドゴルフ  
(山中小学区体育指導委員)

# お知らせ

## ●教育最新情報

### ○豊かな心を育てる教育

美しいものに感動したり、新しいことに挑戦してできるようになったり、人に出会って心が通ったりすると、子供はすばらしい表情を見せる。その表情は、教師の喜びであり、保護者の願いである。

豊かな心を育てる教育は、確かな学力定着と同様に大切にしたい。各校の特色を生かし、次の点で推進を図りたい。

### 読書指導

現在、読書の時間が設定されている学校は、小学校で三十四校、中学校で十校である。小学校は、本の読み聞かせを實施しているところが多く、保護者のボランティア活動として、活発に行われているところもある。中学校は個人読



書が中心で、週一回、十五分から二十分程度の時間を取って実践している。毎日読書の時間を設定しているところも二校ある。

各学校において、読書の時間と場所を積極的、計画的に設定し、指導の方法も様々工夫されることを期待している。平成十五年度より、十二学



▲読みかせボランティア (六西小)

級以上の学校に、司書教諭を置くことになる。趣旨は、より専門的な指導のできる教員を配置して、図書館活動を活発にすることである。

子供たちの心を揺さぶり、日常の生活に実践的に結びついていく価値観を育てたいものである。

### 道徳教育

道徳の時間の重要性が各校に浸透してきている。時間数の上からも、昨年度は、週一時間の時間の確保が確実になされていた。

行事で子供が一回りも二回りも大きく成長することがある。それぞれの学校で特色ある子供の活動が展開されている。

さらに、今後は授業内容の充実重点をおきたい。

大樹寺小学校では、家康にちなんで種目が工夫されている。

「資料の読み取りに終始していませんか」

北中ソーランは、話題を呼んだ。その輪は広がりがつつある。市の観光課は夏祭りへの参加を呼びかけている。

「登場人物の気持ちばかりを問う発問が続いていませんか」「先生の話が長くなっていませんか」

各学校においては、

### ▼道徳の授業のカキクケコ

- カ 感動・葛藤があるか
- キ 共感的理解があるか
- ク 食い込みがあるか
- ケ 経験をどう生かすか
- コ 計画性はあるか
- 交流があるか

文部科学省 柴原調査官(談)

### 特色ある活動

恵田小学校では、全員の子供が一輪車に乗ることができ、高学年では、サーカスのような曲乗りが披露できる。



◀一輪車カーニバル(恵田小)

設定し、子供たちの心豊かな成長を支えようとしている。

### 芸術鑑賞会

本年度の芸術鑑賞会は、小学校全学年が対象となる。かかし座による「ジャングルブック」を上演するので、多くの参加を期待している。

- ・ 学校間交流
  - ・ 小学校と中学校の交流
  - ・ 幼稚園と小学校の交流
  - ・ 友好都市との交流
  - ・ 盲・聾・養護学校との交流
  - ・ 施設・老人ホームへの慰問
  - ・ 国際交流
- 等の交流が行われている。人とかかわる場を意図的に

ジャングルと、そこで生きる野生動物たちと、少年モグリへの命の営みをみずみずしく描いたノーベル賞作家キップリングの不朽の名作の舞台化である。オオカミ一族に育てられた少年モウグリが、獣たちのおきての中で成長していく大冒険物語に期待が寄せられる。



▲H13 夢が語り合える学校づくり推進事業 (矢北中) -ふれあいネイチャーランド-

北中  
ふれあいゾーン「夢広場」  
昆虫の飛び交う「自然ランド」づくり

- ◆第十四回管楽器個人・重奏コンテスト 東海大会  
アルトサクソスの部 優秀賞  
南中 鈴木 健吾
- ◆第九回県ヴォーカルアンサンブルコンテスト  
銀賞 南中合唱部MARI A  
銅賞 六ツ美北中合唱部MIU  
南中合唱部MARI A
- ◆第十九回西三河北吹奏楽コンテスト  
優秀賞 竜海中学校
- ◆平成十四年度夢が語り合える学校づくり推進事業  
六西小

●表彰

◆第46回岡崎市中学校総合体育大会の記録

●種目別競技

種目	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	東海	矢作北	六ツ美
	女	六ツ美	矢作北	矢作
バスケットボール	男	城北	美川	甲山
	女	竜南	南	葵
バレーボール	男	矢作北	竜南	六ツ美北
	女	矢作北	北	東海
ソフトテニス	男	岩津	葵	城北
	女	福岡	竜海	常磐
卓球	男	六ツ美北	矢作北	六ツ美
	女	美川	竜海	六ツ美
体操	男	矢作北	東海	南
	女	南	矢作北	矢作
剣道	男	六ツ美北	常磐	甲山
	女	六ツ美北	矢作北	北
ハンドボール	男	竜南	葵	六ツ美
	女	六ツ美北	竜南	美川
軟式野球	男	美川	東海	矢作
ソフトボール	女	南	甲山	矢作
柔道	男	六ツ美北	甲山	竜南
	女	甲山	矢作北	竜南
サッカー	男	甲山	竜南	福岡

●陸上競技(個人・1位のみ) ★大会新記録☆大会タイ記録

性	種目	氏名	校名	記録
男子	1年100m	柴田陽介	南	12"5
	100m	坂知道	矢作北	11"8
	200m	武田輝	東海	24"4
	400m	桜井正之助	六美北	56"3
	800m	坂野文昭	美川	2'07"3
	1年1500m	藤井延幸	東海	4'51"6
	2年1500m	鈴木慶輝	矢作北	4'33"9
	3000m	藤井康友	東海	9'44"4
	110mH	三宅佑典	岩津	17"6
	800mR	井上・日下部・黒谷・坂	矢作北	1'38"5
女子	低400mR	築山・岩瀬・奥村・近藤	北	51"0
	走幅跳	小林和真	東海	5m94
	走高跳	井上諒	矢作北	1m65
	砲丸投	岩本浩一	矢作北	12m10
	棒高跳	内藤晶	東海	2m90
	1年100m	浅井琴音	甲山	14"0
	100m	大沼芽生	東海	13"3
	200m	太田紗貴	福岡	27"7
	800m	坂田知穂	東海	2'28"1
	1500m	足立依實子	東海	4'58"5
男子	100mH	岩脇真奈美	矢作	15"2
	400mR	次田・岩脇・川根・渡辺	矢作	53"5
	低400mR	夏目・西村・宇木・伊藤	竜海	56"2
	走幅跳	岩脇真奈美	矢作	5m03
	走高跳	酒井千佳	城北	1m40
	砲丸投	大澤久美子	六ツ美	10m78



▲第46回岡崎市中学校総合体育大会開会式 (中央総合公園体育館)

●体操競技(個人・1位のみ)

性	種目	氏名	校名
女子	個人総合	藤本佳奈	南
	床運動	芝田有美佳	矢作北
	平均台	鈴木美沙	東海
	跳箱	藤本佳奈	南

●柔道(個人・1位のみ)

性	階級	氏名	校名
男子	軽量級	森達也	六北
	軽中量級	植田潤	六北
	中量級	鈴木基生	甲山
	重量級	黒柳光	竜海
女子	軽量級	川合澄佳	甲山
	軽中量級	安藤夕貴	甲山
	中量級	佐多希美	甲山

・カ  
ツ  
ト  
  
東  
海  
中  
土  
井  
誠  
司

# フォト・ヒストリー

## 岡崎の教育

昭和六年六月三日に第一回の岡崎市連合衛生会主催健康優良児童審査会が行われた。そこで、美合小学校の尋常四年生と五年生の二名が表彰された。

児童の頭上には表彰状が、胸にはメダルが誇らしげである。上半身はだかで、頭も丸坊主であり、いかにも昭和初期らしい。当時のトップクラスの児童の身長が、現在の平均身長とほぼ同じである。児童の体位の向上がよく分かる。



健康優良児童審査会（昭和六年）

# この本を

- \*美しい日本の名文・名詩・名歌  
上野和昭 監修  
三省堂 ￥1800
- \*新卒無業  
東洋経済新報社 大久保幸夫 ￥1400
- \*水は答えを知っている  
サンマーク出版 江本 勝 ￥1600
- \*昔の子どもたち  
NHK出版 安野 光雅 ￥2400

- \*三色ボールペンで読む日本語  
角川書店 齊藤 孝 ￥1500

『声に出して読んでみたい日本語』に端を発し、このごろの日本語ブームの火付け役ともなった著者である。

ケースに、ちゃんとボールペンが入っている。大胆な試みである。ボールペンで、ということは、身体感覚を活用して読書をするということ、つまり脳を鍛えること。大学生の理解度が示すアンケートに説得力がある。本に向き合う姿勢ができ、理解が深まることは確かのようなのである。

「お父さんと岡崎公園まで行きました」と休み明けの日記。わくわくカードを利用して、城にも家康館にも行ったそうだ。子供たちの連休は充実している。教師として休みを心待ちにされるのも少し寂しいが、地域全体で子育てできるのであればそれに勝るものはない。

勝負事に真剣に取り組む姿は、いつ見ても美しい。目が輝き、額からは汗が流れ落ちる。勝負を終えた後の顔は、また違った良さがある。球技大会的一幕だ。  
夏休みには、小中学校で多くの大会が実施される。夏の暑さに負けない熱き闘いが展開されることだろう。

# シオ スア

朝の学習で、「読書」「漢字」の学習を設定するなど、学校や学級で独自のカリキュラムや授業の工夫がされている。わずか十五分だが、計算ドリルなどの反復練習を繰り返して基礎学力の定着を図る。子供の実態に応じた毎日の工夫が大きな成果を生む。

水中花を眺めて楽しんだ幼いころ。コップに水を注ぎ、水中花を入れる。底に沈み、すうすと花が開く。その変化が楽しくて、じつと見入ったものだ。  
クーラーのなかった時代、涼しさを呼ぶもの一つでもあった。梅雨が明け、本格的な夏がやってくるのももうすぐだ。